

長尾和宏の



まちいしゃ
**町医者で
行こう!!**

第117回

**映画「痛くない死に方」と
「けったいな町医者」2月公開**

2本の在宅医療の映画

本年も宜しく申し上げます。首都圏の一部三県では緊急事態宣言が発出されるなど、年が明けてもコロナ禍の収束を見通すことができない。既に一部の地域では医療崩壊が起きており、医療者のストレスも高まる一方である。こんな自粛続きのなかでも市民はエンターテインメントを渴望している。昨年、日本映画界はまさに「鬼滅の刃」一色であった。コロナ禍のなか2月に2本の映画が公開される。劇映画「痛くない死に方」とドキュメンタリー映画「けったいな町医者」である。両者とも在宅医療と尊厳死がテーマである。今回、これらが誕生した経緯をご紹介したい。

劇映画「痛くない死に方」

2000年以降、在宅医療が国策として推進されてきた。高い診療報酬による政策誘導が図られてきた結果、都市部においては在宅専門クリニックが続々と誕生した。さらにコロナ禍においてはオンライン診療を用いた「訪問しない在宅医療」がクローズアップされている。筆者は1995年から在宅医療に従事し、25年間で在宅看取りをさせて頂いた患者さんは2500人を超えた。ほぼ全例が尊厳死であった。この10年間、こうした臨床経験を書籍や講演会、メディアで発信してきた。

しかし3年前、私の書籍のファンだと名乗るある読者からこんな手紙を頂いた。「貴方が勧める在宅医療を私の肺がんの父親にやってみたが実態は全然違っていた。在宅医に電話したが出ないしすぐに来てくれなかった。結局、父親は苦しみながら死んでいった。貴方の書いている尊厳死や在宅なんて嘘

だ！在宅医療なんてやるんじゃないかった！」と綴られていた。

ショックだった。在宅医療の旗を振ってきた一人として責任を感じ、恐る恐るその手紙を書いた娘さんにお会いすることにした。手紙と同様にコテンパンに責められた。その女性が依頼した在宅医はいわゆる有名在宅医であった。しかしじっくり話を聞くうちに、在宅医と患者さん本人と娘さんの想いがまったく噛み合っていないことに気がついた。その時の娘さんと僕の対話を文字にしたのが「痛い在宅医」(ブックマン社)という本である。

1年後、本書を映画化したいというお声をかけて頂いた。在宅医療や尊厳死に興味を持っている高橋伴明監督からだった。築地本願寺で尊厳死の講演をした後、伴明監督と初めてお会いした。映画化が決まり、監督と俳優さんとプロデューサーが尼崎に来られた。一緒に在宅患者さん宅を訪問した。果たして伴明監督自らが脚本を書かれた。尊厳死を解説した拙書「痛くない死に方」(ブックマン社)も組み入れて頂き、ウィットの効いた川柳も添えられていた。

撮影は2019年8月、猛暑の中の首都圏で行われた。主役の痛い在宅医役は柄本佑さん、ベテラン在宅医役は奥田瑛二さん、患者役は宇崎竜童さん、その妻は大谷直子さん、僕にクレームを言ってきた娘さん役は坂井真紀さん、そして訪問看護師役は余貴美子さんなど重厚な配役であった。私は原作者としてまた医療監修として撮影に同行した。

2020年夏に公開予定であったが、コロナ禍で延期となった。しかし2021年2月20日シネスイッチ銀座で封切られ、全国の映画館で順次上映される予定である。在宅医療や尊厳死に興味のある医師に



映画「痛くない死に方」と「けったいな町医者」のポスター画像



も是非観て頂きたい。僕のライフワークがこの映画に集約されている。

ドキュメンタリー映画「けったいな町医者」

「痛くない死に方」の撮影終了後、僕自身のドキュメンタリー映画の企画を頂いた。町医者の日常に密着したドキュメンタリー映画も撮り、観客に2本を比べて欲しいとのこと。最初は二つ返事でお断りした。医療は見世物ではないからだ。しかし劇映画とドキュメンタリー映画の2本同時公開という提案には魅かれる点もあり、最終的に「とりあえずやってみようか」となった。

「痛くない死に方」で助監督を務めた毛利安孝氏がドキュメンタリー映画の監督として2カ月間、僕の医療現場に同行することになった。同行初日、さっそく在宅看取りに遭遇した。振り向くと毛利監督は撮影どころか泣いていた。え？こんな調子で大丈夫か？と思ったが結局、昼夜を問わず2カ月間、密着してくれた。患者さんや家族の承諾を得たうえでの取材である。

しばらくして仮編集のDVDが送られてきたが、大きな壁におち当たった。映画公開に際して、取材した患者さんやご家族から映画出演の承諾が得られるかどうかである。私のなかでは、仮に承諾を得られたとしても人の生死に関わるまさに個人情報をもとに映画化してもいいものか、医の倫理に反しない

か、と葛藤した。正直に告白すると、今でもまだ葛藤している。もしかしたら私の医者人生が終わるかもしれないことも覚悟している。しかしせつかく承諾して頂いたご家族(多くは本人は既に旅立たれている)のご厚意に報いるためにも前向きに協力することに決めた。タイトルは「けったいな町医者」になった。「けったいな」という大阪弁には半分以上馬鹿にしながらも一部は認めるというニュアンスがあり、満足している。

これ以上は書かないほうがいいだろう。ありのままの僕の日常と患者さんの肉声から何かを感じ取って頂ければ幸いです。まったくの偶然であるが、2本とも最後に登場する患者さんは同年代の肺がん患者さんである。一方は劇映画の尊厳死、一方はドキュメンタリー映画の尊厳死。両者は似た世界か、はたまたまったく違う世界か。ご批判が待ち遠しい。

この映画は「痛くない死に方」とほぼ同時期の2月13日にシネスイッチ銀座から全国公開される。既に2本の予告編がネット上で公開されている。是非2本とも観て頂きたい。しかしお願いがある。両者を同じ日に観ないで頂きたい。きっと頭のなかが混乱するので日を分けて鑑賞して頂ければ幸いです。

なお かずひろ：1984年東京医大卒。95年、尼崎市に複数医師による年中無休の外来・在宅ミックス型診療所「長尾クリニック」を開業。近著に「あなたも名医! 医師にとつての「地域包括ケア」疑問・トラブル解決 Q&A60」(小社)など

18 特集

知っておきたい痒疹の鑑別と治療

佐藤貴浩

01 キーフレーズで読み解く 外来診断学

2日前からの心窩部圧痛を主訴に受診した51歳男性
生坂政臣 ほか

07 胸部X線画像読影トレーニング

この病変は良性(非がん)? それとも悪性(がん)?
中園貴彦

09 難渋症例から学ぶ診療のエッセンス

両側性悪性頸動脈小体腫瘍の治療戦略
岡本 奨 ほか

12 プライマリ・ケアの理論と実践

患者の動機を見出す、引き出す
豊田喜弘

14 クリニックアップグレード計画

With コロナ時代に安心して内視鏡検査を受けられる
ゆったり空間のクリニック

54 長尾和宏の町医者で行こう!!

映画「痛くない死に方」と「けったいな町医者」2月公開
長尾和宏

03 プラタナス

16 感染症発生动向調査

35 私の治療

46 差分解説

50 プロからプロへ

68 NEWS DIGEST

70 学会・研究会・セミナー情報

72 ドクター求 NAVI

76 ドクター掲示板

56 医療界を読み解く【識者の眼】

倉原 優	核酸ワクチンの期待と懸念
松嶋麻子	パンデミック時の『命の選択』
伊藤一人	前立腺癌と新型コロナの意外なつながり
渡辺晋一	エビデンスに基づかない情報発信
武久洋三	『FIM』と『BI』どちらが良いか
鈴木邦彦	かかりつけ医と地域包括ケア(5)
馬見塚統子	重層的支援体制整備事業の発展
吉田 伸	外来の受診間隔: 亜急性期
相原忠彦	事故統計と自賠責保険の問題点